

気象集誌に投稿される学会員へのお願い

気象集誌編集委員会

気象集誌編集委員会は集誌の発展向上のため努力を重ねておりますが、投稿される会員も下記の事項に一層の御協力をされることを希望します。

1. 投稿について

原稿(図を含め)は正副計3部を提出する。大きな図は不都合なので鮮明な写真版に縮める。投稿論文であることを明記し、原稿枚数・図枚数・氏名・所属機関・住所(郵便番号)を記すこと。

2. 論文の内容について

投稿論文については編集委員・専門レフリーが検討を加えるが、投稿者はその助言を頼りとすることなく、投稿前に可能なかぎり努力し、完成した論文を投稿すること。これにより編集が能率よく行はれるようになろう。

(1) 事前の討論をへたものと云うことは、単に学会で講演をすませたと云う形式を云うのではない。関係する研究者グループ、研究者相互間の実質的討論が必要である。

(2) Acknowledgment は形式ではない。acknowledgeされる指導的研究者・同僚研究者は、実質的に指導・有益な助言・コメントを与えたはずのものである。

(3) 正確な英文は困難であるが、最大限の努力をしてほしい。事務局では英文の専門家に添削をあっせん(有料)するが、それはあくまでも英文にかぎったことであり、気象学の論文としての添削ではない。本来なら、投稿する前に、著者の責任で(もし必要なら)英文の専門家に目を通してもらうべきは必ずのものである。このことによりレフリーは英文にわずらわされることなく純粋に論文内容の検討に専念出来る。

(4) 云うまでもないが、論文では、著者の目的・意図あるいはその仕事の意義が明白でなくてはならない。

(5) 本文・数式にしる図表にしる、それがその論文に必要な位置をしめねばならぬ。本文にも説明のないような図表のある場合もみられる。

3. 論文の長さについて

論文は8頁まで無料、それを越えた頁につき Page charge を必要とする。(1973年6月現在6,000円(1 Page)である。)要報は4P以内であるので、投稿者は、頁の見積を正確にし、4Pを越さないよう注意すること。

4. Revise について

理由のあるコメントがつき、revise の要求された場合は、充分に検討し(もちろん、コメントが常に正しいとはかぎらないが)revise をしてほしい。改正稿は、そのむねを(revise 稿であることを)明記して、正副各3部担当編集委員に提出のこと。

5. 校正について

校正の時点での修正は、行ってはならない。校正稿は、気象庁内気象学会事務局、気象集誌編集部あて郵送する。(編集委員長まで送ってはならない。)

6. Reviewer について

レフリーを依頼された場合は(レフリーの要領の細目はその都度、印刷物でお渡しする)、2週間程度でreview していただきたい。

7. 気象集誌の主要目的

主要な目的は国際交流にある。特に国内の交流のみを目的とする論文は他の適当な刊行物に投稿するほうがよい場合もある。

[註] 一般的注意事項に関して「調査研究の道しるべ」(河村武, 1970). 天気 12. 609-613 を参照されたい。

第13回全日本科学機器展(日本気象学会後援)開催のお知らせ

会 期 昭和48年9月27日～10月1日 5日間
会 場 東京・晴海・東京国際貿易センター

開場時間 午前10時～午後5時
入 場 無 料